

ETTO

#006

2016 Spring

【 えっと 】

広島県

医師として広島県を「えっと」楽しむマガジン



特集

HIROSHIMA Seminar Review

～広島県は、学びの土壌が無限大～

広島県地域医療支援センター
(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)
が発行する、

医学生・研修医・若手医師に
広島県の医療をPRするための
広報冊子です。

今号は広島で行われている
若手医師向けのセミナーを特集します。

医師として広島県を「えっと」楽しむマガジン

ETTO

【 えっと 】 2016 Spring #006

広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

若手医師の研修・研鑽の機会が充実した 広島で臨床研修をしませんか



広島県には25の臨床研修病院があり、環境も病院規模も様々です。
多彩な臨床研修病院が提供するプログラムは、
必ずやあなたのニーズにマッチした研修を提供してくれることでしょう。

臨床研修病院合同説明会 (レジナビフェア) などへの出展



広島県では、県内で初期臨床研修を行っていただける医師を増やす取り組みを入れていきます。
県内の臨床研修病院が共同で、合同説明会「レジナビフェア」「マイナビレジェス」に出展しています。
広島県の参加病院は、全員お揃いの真っ赤なベストを着て、一体となって医学生の方々を迎えています。

女性・ベテラン・若手の 活躍支援



県内で活躍する医師のために、様々な支援を行っています。女性医師が働きやすい勤務環境整備・復職研修支援・子育てサポート、定年勤務医等への求人求職斡旋、若手医師への医療機関横断的な研修支援などを行い、やりがいを持って活躍できる環境整備を進めています。

全国出張面談の実施



広島での就業や臨床研修を考えておられる医師・医学生の方に、個別相談をお受けしています。当センターの医師が、平日日問わず全国どこでもお伺いし、広島の医療や研修病院について説明します。具体的な時期が決まらなくても構いません。お気軽にご相談下さい。

暮らしやすく楽しめる広島

広島県は、「日本の縮図」といわれているように、経済・社会・文化・商業・工業の様々な要素をもち、「都市」としての機能を有しながら、「自然(海・山)」も豊富。最近ではサイクリストの聖地として「しまなみ海道」に来る方も増えています。さらに全国・県内移動のアクセスに優れているのも特徴。どんな人にも住みやすく、自分らしく自由に暮らすことができる、賢い地なのです。



地域医療への扉

ふるさとドクターネット広島

広島県地域医療支援センター(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

<http://www.dn-hiroshima.jp>



広島県地域医療支援センターは、広島県・県内全市町・広島県医師会・広島大学が協働し、広島県の地域医療の確保等のため、平成23年7月に設置された公的団体です。

わたしたちは、広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在解消のための配置調整や医師確保、人材育成等に総合的に取り組んでいます。

医師の立場からの助言ができるよう、自治医科大学出身の内科医師も勤務しており、みなさまのご相談やご希望を伺っています。



【 お問い合わせ 】 広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)
〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2-3-4階 電話：082-569-6491 FAX：082-569-6492
E-Mail：iryu@hiroshima-hm.or.jp



先輩スタッフからのアドバイスや応援もあり、参加者同士の横のつながりに加えて、運営側の縦のつながりも年々広がりを見せている。

グループごとに別れディスカッションし、症例検討結果を発表する。



病院へ見学に伺ったことがあり、その縁で今回の検討会が実現しました」と、現在HGS代表を務める大西先生。広島市民病院での研修2年目は、日々の診療に加えてHGSの代表としてこの運営を担ってきた。

症例検討会では実際に大西先生が担当した救急患者の症例を基に、初期診断のポイントから、どう患者の病歴を引き出すかを志水先生がレクチャーしながらディスカッションを進行。患者の病歴を上級医に報告する際に、映像としてスムーズに頭の中を描けるよう丁寧にヒアリングすると同時に、自分の家族だったらと想定して次の処置を考えるなど実践的なアドバイスが豊富に提示された。

「学生の中からHGSに参加している大西先生は、代表として仕事と両立しながら仲間を束ねてよくやっていると思います。今回の企画では特に参加者が増えているし、自ら動いて実現

させています。検討会の内容を充実させるのはもちろんなのですが、こうして地道に活動を継続すること自体が意外と大変です」と、元代表の吉田先生。初期研修医は2年で交代するため、途切れずに次の代に引き継ぐことも、毎年必ず出てくる大きな課題だと自らの経験からも語る。

「立ち上げから携わってきましたから、私たち後期研修医も準備や特別講師の紹介など積極的に応援しています。ここを起点に広島の研修医がつながって、HGS参加者がそのうち指導医としてここへ招かれる日を楽しみにしています」と、同じく元代表の秦先生は今後の協力も視野に入れている。

「HGSの『Green』は若葉のイメージ。HGSを着実に継続し、広島の研修は楽しそうだと多くの学生さんが知ってくれるよう、HGSを育てていくのが理想です」(大西先生)

HGS代表
大西俊平 先生

愛媛県出身。平成26年に広島大学を卒業後、広島市立広島市民病院にて初期研修2年目。

元HGS代表
吉田雄介 先生

広島県出身、広島大学を平成23年に卒業後、広島大学病院、洛和会丸田町病院で後期研修。現在、広島大学大学院に在籍中。

元HGS代表
秦昌子 先生

広島県出身。平成22年に広島大学を卒業後、広島市立広島市民病院にて初期・後期研修を受ける。



初期研修医が広島の医療を盛り上げる！ Hiroshima Green Summit

— プライマリ・ケアの名医を迎えて —

11月14日、土曜日。初期研修医による初期研修医のための勉強会が広島市民病院にて開催された。集まったのは県内各病院の初期研修医を中心に約50名。ファシリテーターに東京城東病院・総合内科の志水太郎先生を迎え、「堅苦しくない」をモットーにする勉強会が始まった。

「今日はHGSのモデルであり関西の初期研修医による『関西若手医師フェデレーション(通称カンフェデ)』の発起人も務めていた志水先生をお迎えしました。今では著書や講演で情熱溢れる総合内科医として知られ、僕自身も一度お会いしたくて東京城東

。初期研修医による初期研修医のための勉強会をテーマに掲げ、初期研修医が中心となって症例検討会やセミナーを企画・運営している「Hiroshima Green Summit(以下、HGS)」。

県内の初期研修医はもちろん、医学生や若手育成に関心がある上級医も参加でき、2010年秋の発足から5周年を迎えた。毎回、各病院の初期研修医がプレゼンテーションを行い、ファシリテーターとして特別講師を招いて討論。幾つかに分かれたグループで自己紹介から始めてディスカッションを行うなど、肩肘張らず、気軽に発言しやすい環境で学ぶ機会であり、県内の若手医師の交流の場として参加者を増やしてきた。

継続を力に変えて
 さらなる広がりと楽しさを



志水先生は「診断戦略: 診断力向上のためのアートとサイエンス」(医学書院)や「志水太郎の愛され指導医になろうぜ-最高の現場リーダーをつくる」(日本医事新報社)など著書も人気。1日からの研修受け入れも行い、若手育成の指導に力を入れている。



地道に続けていくことで次の世代にバトンをつないでいく強い意志を持つ大西先生。欲張らず地道に続けていこうと笑い合う三人の医師たちは、力強さもあるがとても楽しそうだった。

「かしこまらずに楽しい会として続けていって、それがこの会の魅力として運営側も参加者も増やしていけたらいいね」(秦先生)

きっと数年後、さらにパワーアップしたHGSのイベントに参加させてもらえるだろう。

参加医師の感想 #02

志水先生のお話を聞いて、まずは目の前の患者さんから学ぶことが一番自分の糧になると感じました。それは初診患者さんの病歴を詳細に聞き取ることであったり、入院患者さんの日々の症状や身体所見の変化を詳細に把握することであったりと、初期研修医の私たちでもできることであり、最も大切なことだと改めて認識しました。

新田詩織 先生

広島市民病院
 初期研修1年目



参加医師の感想 #01

別の病院で働いている友人と久しぶりに話したり、ディスカッションできること、そして新しい人との出会いもあり、楽しく新鮮でした。ディスカッションではいろんな人の意見を聞けてよかったです。また志水先生の研修医に期待していることのお話を聞いてモチベーションが上がりました。次回もぜひ、参加したいです。

岡崎悠治 先生

県立広島病院
 初期研修2年目



Hiroshima Green Summit
 ヒロシマグリーンサミット

【代表】
 大西 俊平 (広島市民病院初期研修医)

【スタッフ】
 駿河 宗城、世良 武大、平田 一成、新田 詩織、上村 磨矢、池上 雄紀、金 敬徳、前田 啓佑、三島 顕人、森田 慎也

<http://hiroshimagreensummit2010.jimdo.com>



土手慶五 先生

Ge-Netの発案者であり、今も先頭に立って勉強会を企画している。救急という“入口”だけでなく、介護や福祉などの受け皿となる“出口”まで地域で連携して円滑に患者の生活を支えることが大事だと活動を続けている。



Ge-Netを立ち上げた安佐市民病院副院長の土手慶五先生。

支え合う地域医療へ 私たちが若手をつないでいく

「この地域のように高齢化率40%を超える中山間地域の医療は、人の役に立ちたいと思っていればいるほど医者冥利に尽きる医療の現場です。しかし、そこで若くして、一人診療所状態になると、やる気のある若手でも力尽きてしまうという心配もあるのが現状です」と、安佐市民病院の内科・総合診療科主任部長の加藤先生。救急の引き渡しを受けるたびに、地域医療に携わる若い医師たちの苦勞を目の当たりにしてきた。

「真剣に地域と向き合っていると、なかなか広島市内の勉強会には参加しづらいはず。何より、孤立してはいないか心配でした」と語るのは、主催者の一員で、過去に中山間地域の診療所に務めていた経験のある原田先生。「診療所に勤務していた当時、加藤先生とは患者さんのことでよくコミュニケーションをとっていました。支え合う頃に、土手先生が『Ge-Net』を立ち上



総合医育成に向けて 安佐北区で手がける教育プロジェクト Ge-Net 藝州北部ヘルスケアネットワーク

— 支え合う環境作りから始まる！総合医ネットワーク —

広島駅から15km、車で約30分。“ほどよく都会、ほどよく田舎”と言われ、その住みやすさが魅力だという安佐北区。中心に位置する安佐市民病院は「北の砦」と呼ばれるように、広島市北部から島根県南部までをカバーする、地域医療の重要拠点だ。広島県は、土地柄、山間部や島が多いために、若手の医師でもたった一人で地域に根ざして働くことが多く、一刻も早い総合医の育成が求められている地域でもある。今日は、この地域で行なわれている研修セミナーを主催する団体「藝州北部ヘルスケアネットワーク（以下、Ge-Net）」について、主催している安佐市民病院の医師に話を聞くことができた。



原田和歌子 先生
総合診療科副部長。日頃から指導医として初期研修医など若手の指導に熱心。事務局として土手先生、加藤先生を支えている。



加藤雅也 先生
内科・総合診療科主任部長。土手先生とともに、事務局として活動をサポートしている。



多幾山涉 先生
2010年より広島市立安佐市民病院の院長を務める。

げるから一緒に手伝わないかと加藤先生からお誘いいただきました。「Ge-Net」のセミナーでは毎回、初期臨床研修医の症例発表を行い、地域の診療所に一人で携わっている先生とともにディスカッションしたのち、ペテラン医師を招いての講演会を開催します。毎回、およそ70人程度の参加者が各地から集まってリアルな情報を共有しています。19回目のセミナーを終えた今も、私はこの会から学ぶことが多いです」（原田先生）

そんな地域で総合的に見てきた原田先生から、加藤先生のようなペテラン医師も、セミナーから学ぶことが多かったと言った。

「当院の総合診療科は、みんな内科の専門医ですが、総合診療専門医をこれから育成していくところです。これは当院に限った事ではありません。それを、加藤先生や原田先生のようなペテランや中堅の皆さんが若手を巻き込んで活動してくれているのは病院としてありがたいこと」と、安佐市民病院の病院長、多幾山先

生は語る。年間約4000台の救急搬送に日夜奔走しているこの病院を核に、地域の医療施設が密接に関係できていることは、奇跡のようだと話す。そのつなぎ役となったこのネットワークも最初は有志の医師の「草の根運動」として始まったが、すぐに病院全体でも有用性を感じ、強いバックアップを行っている。

「ほかのセミナーとの大きな違いは、地域医療をテーマに、地域のリアルな情報を、その経験者である地域の先生が話すという構造。こうした活動から医師同士、顔が見える地域になれば、勉強の場としてもこの地域はさらに注目されるはず。安佐地区、山県郡、安芸高田市、島根県邑智郡で頑張っている医療者同士の固い絆で未来を担って欲しいです」（多幾山先生）

さらに、大学のふるさと枠の学生も招くなど幅を広げたいと語る。今後、総合医になりたいと希望する若手にとって、学びの場のモデルと



隠岐島前病院白石吉彦院長によるハンズオン講習



第19回を迎えた講演会では隠岐広域連合立隠岐島前病院の白石吉彦院長を迎え、「離島発！THE整形内科」～地域医療の仕組み作りから運動器エコーまで～と題してハンズオン講習が行われた。超音波診断装置の画像を見事に使いこなす白石先生の実演に感銘を受けた若手も多かったと言う。

参加医師の感想

CTやMRIなどの診断機器がない中、どのように診察されているのか、その実態を知りたいという思いで参加しました。実際に参加してみて、身体診察の仕方やエコーの使い方など、明日からでもすぐに役に立つ実践的なことや、地域医療における看取りの実態などを教えていただき、大変勉強になりました。

安佐市民病院の職員は活気に満ちあふれています。実践的なことはもちろんですが、患者さんの状態が改善した後の生活も含めたマネジメントの仕方を学ばせていただいています。また、学術的なご指導も丁寧にいただき、総合的に診療する能力を身につけることができたと感じます。



部村公香 先生
安佐市民病院 初期研修2年目



地方独立行政法人 広島市立病院機構
広島市立安佐市民病院
〒731-0293
広島県広島市安佐北区可部南2-1-1
TEL：082-815-5211 FAX：082-814-1791
E-mail：secre@asa-hosp.city.hiroshima.jp
Hospital Director：多幾山 涉 病院長
<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp/>



麻酔科エキスパートセミナーでは大下先生の講演「麻酔科医として緩和ケアに関わる」のほかにも、人気シリーズ「声に出して読みたい麻酔チャート2015冬」に続き、ランチョンセミナーでは麻酔科医に役立つアプリの紹介も。さらに会場を移動し「ABCD sonography (肺エコー)」の講演とハンズオンが行われた。

「ABCD sonography (肺エコー)」の講演とハンズオン



と麻酔科医全員でエキスパートになる必要がありそうですよ。河本：僕なんて30年麻酔科専門医だけど、エキスパートなのかと言われる疑問。大下先生からは緩和ケア、ほかにも若手からその得意分野について学ぶことは多いからまだまだこれから！

讃岐：セミナーについて言えば、参加者は努力し続ける人ばかりだからリピーターがほとんど。そうなると思うように開催する方も努力し続けたいといけない。

大下：同じようなテーマでも講演者が変われば視点が変わりますし、ハンズオンで手を動かしながら実践的に学べる機会はなかなかないから、充実させられているはず。

讃岐：使える知識や使える技術を提供する形で提供するのが一つのテーマ。実際にできることが重要ですよ。

河本：翌日から使ってもらえるスキルだから主催者側である僕らも楽しみたい。いわゆる座学で知識を共有する学会とは一味違う。

讃岐：手を動かして、使える技術にしておくことで、もしかするとそれ以前なら助けられなかった患者さんを救える可能性が出てくる。うちのセミナーは、そうした実感を持って医療に臨むきっかけにもなるんじゃないかな。

河本：それに、麻酔科医の充実がその

病院や地域の手術のレベルを左右するにも関わらず、医師になりたいと思った時、ストレートに麻酔科医になりたい人って稀じゃないですか。でも医療に携わって様々な医師との出会いの中で麻酔科へ導かれていく。そう考えると、こういうシステムやセミナーを広めるだけでも広島県の医療を盛り上げていると信じたい。

大下：私が麻酔科に入局したきっかけも、女性が生き生きと働いている印象があったことが大きく左右しました。出会いが重要ですね。

河本：当時から女性が働きやすい環境を推進し、活躍支援などに取り組んできました。今では大下先生がモデルとなって学生さんや女性が増えていることは素晴らしいこと。そう、このセミナーがきっかけで入局した人もいますよ。

讃岐：出会いが出会いを呼んで、広島県の麻酔科医を底上げしていけたら、この研修やセミナーがその出会いに一役買ったくらい嬉しいですね。

大下：麻酔科に興味がある人は、一度来てみてほしいですね。

河本：そう、とにかく見てもらわないと。一緒にエキスパートを目指す仲間だからね。

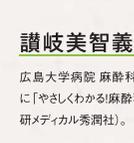
讃岐：エキスパートへの険しい道を歩もうと決めた、覚悟ある者同士、ともに成長していきたいですね。

一同：広島で一緒にエキスパートを目指していきましょう！



河本昌志先生

広島大学病院 麻酔科診療科長・教授。著書に「広島大学病院の最新治療がわかる本」(南々社)。



讃岐美智義先生

広島大学病院 麻酔科講師。著書に「やさしくわかる麻酔科研修」(学研メディカル秀潤社)。



大下恭子先生

広島大学病院 手術部助教。「症候診断治療学」や「アドバンスト医学実習」を担当。



限界もゴールもない 麻酔科医の“エキスパート”という道へ ひろしま麻酔科研修ネットワーク

— 広島からともに歩もう！ 麻酔科医ネットワーク —

広島を拠点に麻酔科専門医を養成することを目的にスタートした「ひろしま麻酔科研修ネットワーク」は、2007年に発足して今年で10年。毎年恒例となっている年末の“麻酔科エキスパートセミナー”を終えたばかりだという主催者の広島大学病院麻酔科の河本先生と讃岐先生、講演を担当した大下先生から今後の展望やセミナーへの想いを語っていただいた。

明日から使える技術を手に入れたら、エキスパートを目指す覚悟を胸に

河本：今回もいいセミナーでしたよね。大下先生の緩和ケアに関する講義も、非常に興味深かった。

大下：ありがとうございます。長らく、教えられる。側にいたのですが、講義をすることで、私も学ぶことが多く、参加者のパワーにも圧倒されました。

讃岐：「麻酔科専門医」を目指すというのにはその通りだけれど、資格取得に留まらず、全国的にレベルの高い麻酔科を目指したいエキスパートが集まるから参加者もレベルが高いですよ。刺激になる。

大下：研修システムを整備することも大事だけれど、年に一度は集まって、めまぐるしく変化していく最新の医療技術をキャッチアップしていく姿勢が大事ですよ。

讃岐：専門医とは、資格よりも心の持ち方。学び続ける姿勢というか、日々、精進するしかない医療の道の途中に在るわけで。

河本：その通り。医療を学ぶことに終わりはない。

讃岐：今日エキスパートだと思っても、来週は、来月は？と聞かれると、努力を継続できるかが問われますよね。

大下：ストイックに精進できる医師が一人いて変わることもあるのでしようけれど、やはり、医療の質、というところまで変えていこうとする

参加医師の感想 #03

「声に出して読む麻酔チャート」の講演を聞いて、アナフィラキシーショックや悪性高熱症など、いつ遭遇してもおかしくない疾患を、チャートで見て、一瞬の判断の大切さを実感しました。麻酔科をかけることは、一瞬も気を抜いてはいけません。と再確認しました。

広島でこのような大規模で勉強になるセミナーがあることはとても素敵だと思います。先生方、本当にありがとうございました。

松本友梨先生

広島大学病院
 麻酔科3年目



参加医師の感想 #02

日々の業務だけでは経験できないことも、どんなことでも吸収し、身につけたいと思います。麻酔科エキスパートセミナーに参加しました。

麻酔科医として、手術麻酔とは違うところで患者さんの苦痛を少しでも減らす手助けができることをすごく嬉しく感じました。私もいつか緩和ケアに関わってみたいと思いました。

荒田久美子先生

広島大学病院
 麻酔科3年目



参加医師の感想 #01

麻酔科エキスパートセミナーには毎年参加しており、今年も上司の先生からお誘いいただいたので参加させていただきました。

今回のセミナーはハンズオンセミナーであったため、指導を受けてながら手を動かすこと、そして実践を想定したシュミレーションを行うことで現場で肺エコーを実施するイメージをつかめたことが良かったです。

黒田皓二郎先生

JA尾道総合病院
 麻酔科5年目



ひろしま麻酔科研修ネットワーク

hiroshima-masui.net

広島大学病院とその関連病院群の中から特徴ある研修可能な教育研修施設で構成されている。基本的に「麻酔科専門医養成コース」として6年を一区切りとするものの、調整委員会と本人での調整を行い、1年単位での参加や、妊娠・出産による一時中断も可能な開かれた研修システム。毎年大々的にセミナーを開催し、県外からも希望者を受け入れるなど、年々、全国的な知名度を増している。



http://hiroshima-masui.net